

会 議 録

会議名 (審議会等名)		さがみはら森林ビジョン審議会		
事務局 (担当課)		森林政策課 電話042-780-1401 (直通)		
開催日時		令和4年1月19日(水) 10時00分～12時00分		
開催場所		津久井総合事務所3階 第2会議室#		
出席者	委員	7人(別紙のとおり)		
	その他	0人(別紙のとおり)		
	事務局	8人(経済部長、森林政策課長、外6人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1) 令和2年度さがみはら森林ビジョン実施計画の進行管理について 4 その他 5 閉会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 開会

2 あいさつ

事務局で開会し、経済部長挨拶の後、次第に従い、会長が議事を進行した。

3 議事

審議に先立ち、会長から事務局に会議定足数及び傍聴者の有無について確認がされ、委員の過半数以上の出席と傍聴希望者はいないことを報告した。

(1) 令和2年度さがみはら森林ビジョン実施計画の進行管理について

進行管理シート（重点事項その1、その2）について、順次、審議会としての意見及び評価の確認を行った。

初めに、進行管理シート（重点事項その1）の7事業について、審議会から事務事業主管課への意見の確認を行った。また、重点事項その1は審議会による評価が必要となるため、S～Eの6段階による評価を行った。

次に、進行管理シート（重点事項その2）の6事業について、審議会から事務事業主管課への意見の確認を行った。

なお、進行管理シート（重点事項以外の取り組み）については、時間の都合上、意見がある場合には、後日、事務局へ連絡をしてもらうこととなった。

【「重点事項その1」に係る審議会からの意見、質疑応答等】

〈事業コード1-2-1 さがみはら森林ビジョン普及・啓発事業〉

(松本会長) 本事業については、コロナ禍でイベント開催が叶わず、予定通りの事業実施ができていないが、代替策として、市広報紙に森林特集を掲載するなどしていると聞いた。今回のように、市広報紙の中で大々的に森林を取り上げるとするのは、前例があるのか。

(事務局) 市広報紙で森林について特集を組んだことは過去にもある。

(松本会長) 10月号の広報紙を読んだ市民から何か反響はあったか。

(事務局) 何件か問い合わせを頂いている。

(中島委員) コロナ禍で生活様式が変化し、イベントの開催等、今までの方法で情報発信を行うことが難しくなっていると感じる。自分も市の観光協会では仕事をしている中で、1つのターニングポイントを迎えていると感じた。その中で、オンライン開催や動画配信等の取り組みを検討することは良いことだが、事業を実施しただけで終わることなく、事業に対するフィード

バックをもらい、それを次に生かしていく仕組みづくりが重要である。

(佐藤副会長) 現在、「さがみはら津久井産材利用拡大協議会」でHPの作成を検討しているが、進捗状況はどうか。また、HPに関しても、ただページを作って情報を載せるだけでなく、閲覧者からフィードバックをもらい、次に生かすことのできるような仕組みを作ってほしい。

(事務局) 現在までに、HPについての検討会を3回開催しており、そこで出た意見を踏まえて、令和4年の3月に開設できるように準備を進めている状況である。

(松本会長) 今後も人を集めるイベントの開催が難しい状況が続くと思われる。実施計画の中にイベント開催を組み込むのも良いが、それ以外にも従来とは違う、新しい形の取り組みも考えていかなければいけない。

(小山委員) 藤野地域には、森林保全に対する意識を持つ人が多くいる。例として、市民の間で「森の再生プロジェクト」というチームを作ったり、ナラ枯れに関する講演会を市民レベルで開催している。そういったことをHP等で紹介して欲しい。

(松本会長) 大人に対する普及啓発というのは今までのイベント等で行ってきたと思うが、児童や生徒に対する普及啓発や環境教育についても別の形で進めていくべきだと考える。例えば、学校への出前授業等で森林に関する授業を行うということが考えられる。

(杉本委員) 先日、市内の中学校で林業についての出前授業を行った。ただ授業をするだけでなく、チェーンソーを持参し、実際に持ってもらったり、木を伐倒する映像を見せる等の工夫を行ったこともあり、評判が良かった。

また、ただ木を伐るだけが林業ではないということを伝えるために、木材生産についての一連の流れを教えることができれば良いと感じた。

(淵上委員) 市内小学校の学習機の天板を交換する事業を市と連携して行っており、同時に児童に対する環境教育も行っている。その中で、児童だけでなく、先生にも森林についてもっと知ってもらう必要があると感じた。

今年度はコロナ禍で環境教育の授業ができなかったため、授業で使う予定であった資料を学校に送り、生徒に見てもらっている。それと同時に、先生に向けた資料も送り、指導に役立ててもらっている。現在は、資料のほかに動画の作成も検討している。

(松本会長) 本事業に対する評価として、新型コロナウイルスによる影響を考えると、当初の数値目標に沿って評価することはあまり妥当ではないように感じる。当初目標に沿って評価すれば「D」評価であるが、市広報紙への特集記事掲載など、評価できる取り組みもあるため、「C」評価とする。

〈事業コード3-1-1 「(仮称) 相模原市市民の森」整備事業〉

(佐藤副会長) 財政的な問題からソフト面の整備を先行しているというのはわかるが、具体的にソフト面とはどのような取り組みを行っているのかというところをはっきりさせるべきだと感じる。

(中島委員) 石老山の現場は何度か見させてもらったが、しばらくは事業ができない状態だと感じた。

また、ハード面の整備については、民間の力を借りることも必要だと思う。そのためには、ビジネスとして成り立つものであるということを押し出していかなければいけない。持続可能な事業にしていくためにもビジネスの視点というのは重要である。

(佐藤副会長) 相模湖の観光船事業者などに働きかけ、遊覧船にて旧ふるさとの森を経由し、大明神に登るルートなども検討してはどうか。

(松本会長) 関東近郊のウォーキングコースをまとめた本も多々あり、需要が高い。市内でもそういったルートをまとめたものを出版あるいはHPに掲載すれば、反響があるのではないか。

本事業についても、当初の数値目標で評価すれば「D」評価であるが、新登山道を整備する等、代替策としては十分評価できる取り組みを行っているため、「B」評価とする。

〈事業コード3-3-1 企業の森の整備〉

(佐藤副会長) 現在、本事業についてはどの程度進んでいるのか。また、どのような体制で企業に働きかけているのか。

(事務局) 現在、具体的な話までは進んでいない。場所の問題や企業に対する働きかけ方について検討している段階である。

(松本会長) 働きかけをするなら、相模湖や津久井湖等から恩恵を受けている相模川下流域にある企業に向けて働きかけると良い。ダム湖の機能を維持しているのは周辺の森林であるということを伝えて協力を促すと効果的だと考える。

(淵上委員) 企業の森に参加した場合の見返りはどういったものなのか。

(事務局) 企業の森の例として、現在神奈川県で行っている「森林再生パートナー制度」がある。この制度では、企業が森林に名前を付ける「ネーミングライツ」や、県HPへの掲載、森林づくり活動等を行っている。

(淵上委員) 現在、市のSDGsパートナーに登録されている企業は400社以上になっているが、中にはどのようにSDGsの取り組みをしていけばいいのかと悩んでいる企業もある。そういった企業に働きかけることも1つの

手だと考える。

(佐藤副会長) 所有する森林を整備して、社員の福利厚生に利用したいという企業もある。市民の森をそのように利用できる特典があっても良いのではないか。

(中島委員) ワークーションと組み合わせると企業も参加しやすくなるのではないか。

(中村委員) 国でも森林サービス産業として、森林を福利厚生に使うことを推進している。

(松本委員) 本事業については、当初の数値目標に沿って「D」評価とする。

〈事業コード 4-1-1 さがみはら津久井産材素材生産量の拡大〉

(佐藤副会長) 素材生産量の数値目標を上回ることができた背景には、神奈川県内で「意欲と能力のある林業経営者」になるために素材生産量を拡大しなければいけないということが影響している面もあると思う。

しかし、県の搬出補助金がないと搬出しても赤字になってしまうというのが現状であり、補助金にも上限があることを考えると、さらに素材生産量を伸ばしていくことは難しいのではないかと考える。

(杉本委員) 来年以降、搬出補助金の予算は減ると思うため、素材生産量は下がる傾向になるのではないか。

(松本会長) 今年度の事業の評価としては、「A」となるが、当初の数値目標を大きく上回っているため、「A+」と評価したい。

〈事業コード 4-1-3 地産地消の促進〉

(杉本委員) 当初の数値目標に届いていないが、これには令和元年東日本台風の影響で木材を出して、営業をかけるということができなかったという背景があるのではないかと考える。そこも考慮して評価を決定した方が良いのではないか。

(松本会長) そういった影響もあったとは思いますが、なかなか検証がしづらい部分でもあるため、今回は「D」評価とさせていただきたいが、よろしいか。

(杉本委員) 問題ない。

(佐藤副会長) 東京2020大会にて、選手村ビレッジプラザに使用された「さがみはら津久井産材」は返却後どのように利活用されるのか。

(事務局) 返却された木材はソファや本庁舎のカウンターとして利用する。この製品には東京2020大会で使用されたということやその製品自体が固定する二酸化炭素の量が表記してある。また、発生した端材を利用して積み木を作成し、イベント等で活用していく予定である。

(松本会長) 使用された原木が伐採される場所からソファやカウンター、積み木になるまでをまとめて1つのストーリーとしたものをHPや広報紙に掲載すると反響があるのではないかと。

〈事業コード5-1-1 市有林整備事業〉

(松本会長) 現在、市有林は何ヘクタール程あるのか。

(事務局) 約350ヘクタールある。

(佐藤副会長) 市有林の整備は進んでいるが、城山地区等では私有林整備が進んでいない。財産区や生産組合は高齢化が進み、独自では森林整備が行われなくなっている。そうした財産区有林や私有林を市内の林業事業者へ施業させるのと良いのではないかと。

(松本会長) 令和2年度の結果として、当初の数値目標にわずかに届いていない状況である。この遅れを来年以降取り返すことができないのであれば、目標自体の変更を考えた方が良いのではないかと。

(松本会長) 評価については、わずかに未達成ということで「B」評価とする。

〈事業コード5-1-1 私有林整備事業〉

(松本会長) 私有林の面積は市有林に比べて圧倒的に多いため、引き続き整備に努めていただきたい。

評価については、数値目標を上回っているため、「A」評価とする。

【「重点事項その2」に係る審議会からの意見、質疑応答等】

〈事業コード2-3-1 津久井産天板交換等事業〉

(淵上委員) 学校の机の天板にナラ枯れ被害木を使えないかということで、製材を始めているところである。大径木の中心であれば天板として利用できると思うが、虫食いがある部分に関しては、天板にするのは難しいという印象である。

〈事業コード4-1-4 木材の多様な利用のための技術・商品開発の促進〉

(佐藤副会長) 市内林業者からバイオマス発電を進め、チップ材の需要を上げてほしいという話があった。

また、鳥屋地区のリニア車両基地建設で発生した木材を何かに使えないのかという声も挙がっている。

(中島委員) 橋本のリニア駅の建設で利用できないか。構造に使うのは不可能だとしても内装の一部に使うことならば可能なのではないかと。

(松本会長) トイレの内装材等に使っても良いのではないかと。

(淵上委員) 端材等を利用することで資源の有効活用にも繋げることができる。

〈事業コード 4-2-3 施業集約化支援事業〉

(杉本委員) 地主へ集約化の話をするときに、市の施策や計画に基づいた事業であることが分かる資料があると、より地主へ説明がしやすくなる。

〈事業コード 5-1-1 里地里山等の整備事業〉

(中村委員) ナラ枯れについて、山の保水機能が下がり、ナラが弱っているところに虫が入ってしまうという見方をする専門家もいる。ナラ枯れの被害に対する対処と併せて、根本的な問題の解決方法も考えていく必要があると考える。

(佐藤副会長) ナラは元々薪炭用として消費されており、人の手によって更新がされていた。ある程度成長した段階で伐採しないと、大径木化して循環機能も弱ってしまい、虫もついてしまう。広葉樹といえども人の手によって更新していかないといけないと思う。

4 その他

次回審議会の開催時期、内容について説明を行った。

5 閉会

以上

さがみはら森林ビジョン審議会 出席者名簿

(50音順)

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	小山 美佳江	公募委員		出席
2	佐藤 治男	さがみはら津久井森林組合 代表理事組合長	副会長	出席
3	杉本 貴広	有限会社 杉本林業 取締役		出席
4	中島 伸幸	公益社団法人 相模原市観光協会 専務理事		出席
5	中村 行宏	公募委員		出席
6	淵上 美紀子	一般社団法人 さがみ湖 森・モノづくり研究所 代表理事		出席
7	松本 武	国立大学法人 東京農工大学大学院 農学研究院 准教授	会長	出席